

葛飾図書館友の会第14回総会報告

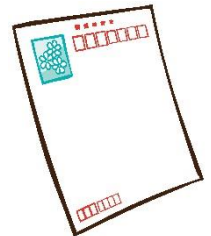
コロナ禍で図書館内での活動自粛のため

昨年度に続き、全議案を書面表決で承認・可決

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う緊急事態宣言延長により、昨年度に続き一堂に会しての総会開催が出来なくなりました。そのため、会員の皆様に2020年度活動・決算・会計監査の3報告と会則の一部改定及び2021年度活動計画・予算の3案の計6議案を葉書での表決をお願いしました。その結果、全議題が議決に参加された会員41名の承認・賛成を得て可決されました。

特に今回は現下の状況に対応すべく、対面による総会の開催が不可能になった場合には「書面議決」に変更できるよう、会則に新たに追加・明記する一部改定を提案し、承認されました。

今年度の活動はコロナの感染・流行の状況により、昨年度後半と同様に自粛になるか現時点では全く予想は出来ません。昨年度開催出来なかった11月の「友の会ウィーク」や1月3日の「新春かるた会」をはじめ、計画に近い形で活動を進めたいものです。



「友の会ウィーク」に代わる「友の会展」を開催

各委員会やクラブが資料などで活動を紹介



毎年11月恒例の友の会や図書館で活動する登録団体などによるイベントである「友の会ウィーク」がコロナにより開催できませんでした。

そのため昨年度は中央図書館内の展示コーナー2か所を利用して、イベントクラブを中心にして、11月の約2週間、友の会の紹介やこれまでの活動に関する資料などを展示しました。図書館のご好意により、会の紹介パネルを新たに

作成していただき、ホワイトボードに大きく掲示しました。

「おはなしくらぶ」はこれまで毎年作成してきた指人形などを中心にカラフルに展示、またナイトシアタークラブやCD・DVDコンサートクラブは開催してきたイベントのカラーのポスターやプログラムの原版を掲示したり、ガラスケースに陳列してご観いただきました。



壮大な医療センターのお腹に新図書館誕生！

こんにちは「にいじゅく地区図書館」さん

ながいあいだ工事が続いていた旧「新宿図書センター」の跡地に本年6月2日、堂々の『東京かつしか赤十字母子医療センター』が顔を見せました。

そしてなんと地区の皆さんに愛されてきた旧図書館は、新医療センターのお腹の中に新しい装いで『葛飾区立にいじゅく地区図書館』として誕生したというニュース！

友の会広報委員会の記者団はさっそく押っ取りペンで訪問、館員の皆さんから、新しい地区図書館としての力強い抱負を、詳しく伺いました。

ドアを開けて先ず感じたのは、新刊本のきりっとした匂いです。古書に近い蔵書のひしめく他館には失礼ですが、これは赤ちゃんの匂いと同じ感じでした。医療センターの中だから当たり前ですが…。



でも、板張りのコーナーで、児童書を前に、若いお父さんと小学生らしい男の子が顔を寄せあってお話ししているのを見ると、たぶんお母さんは医療センターでお医者さまとお話し中かも。いい情景ですね。そして、入り口近くに、院長先生のお薦め本コーナー。他館ではまねのできないアイデアですね。館員の皆さんの熱意が感じられます。

いま、館員の皆さん(7名)は大忙し。開館時はなんと1,000人、今は500人前後の区民を中心に利用者が訪れ、2万冊を超える書籍と雑誌、CDの貸出作業も、順調に回転しているようです。返却本は籠の中へ!!というしかけも面白いですね。



返却本は坂を下って籠へ

新しい図書館スタイルの誕生！

この図書館の特長は、出産・育児に役立つ本、児童書、絵本などの書籍類に重点を置いた収蔵という特徴に加えて、院長先生の熱意によるおすすめコーナーなどがいっぱい。それらをまとめると、

- ①葛飾区立図書館としては初めての、インターネットによる電子新聞(朝日、毎日、日経、産経、東京)の5紙が、タブレット(2台)によって読めること。これはスゴイ！
- ②区内で唯一図書館キャラクター「ミルシカ」「シルシカ」のついたブックポストがあること。
- ③靴を脱いで上がれるスペースは、床暖房付きで、くつろげること。
- ④地区図書館としてはじめて毎週月曜日も開館すること。

見学を終えてドアを開けると、水戸街道の車の流れ、ここだけがオアシスに感じられる花壇が印象的でした。館員の皆さん、沢山のアイデアで多くの方が訪れるよう、ご活躍を祈ります。



(高橋広報委員)

== 開館に友の会が応援 ==

開館にあたり、水曜日の開館日から6日の日曜日まで5日間、来館者の誘導などをメインとする協力をしました。連絡が取れる範囲で会員に協力を求めた結果、午前9時から午後1時からの担当にそれぞれシフトを組み、友の会のエプロンを着用し名札を下げ、のべ10名の会員が協力しました。

開館日当日は来館者への記念品としての図書館バッグの贈呈、また期間中は入り口での手指の消毒依頼や入館票の補充、自動貸出機利用者への援助などの活動を行いました。

子ども連れのお父さんやお母さんや新宿図書センター時代を懐かしむ来館者も多く、うれしそうに真新しい本の貸し出しを受けていました。



『義理と人情—長谷川伸と日本人のこころ』 山折哲雄著（新潮選書）

宗教学者の山折哲雄と大衆作家の長谷川伸との接点はいったいどこにあるのかと不思議に思ったのが、この本を手にしたきっかけでした。タイトルの「義理人情」の世界は十年前の退職までは私にとって大嫌いな言葉でした。それが、どこにも所属しないフリーな立場に立ってみると、この言葉には重要な意味を含んでいると思うようになったのです。また、今私たちがやっている「昔語り」とも深く関係しています。昔語りをやるようになって、私は『瞼の母』と出会いました。紙芝居です。ボランティアでデイサービスへ行き、この作品を演じた時、見ている人たちの集中力が他の作品と全然違うことに気づきました。何故そんなに人の気持ちを惹きつけるのか。そこから、長谷川伸という作家に関心を持っていました。

さて、この山折哲雄は自分が長い間勤めた研究所をやめる時、それまでの蔵書を整理し、そこで残したものは、『柳田国男全集』と『長谷川伸全集』だったそうです。何故かという、長谷川伸は日本人の精神の基層に横たわる倫理観に光を当て、そこに潜む義理人情を見事に表現し、その世界を支えたのが柳田国男の発見した「民俗」社会だと思ったからです。明治生まれの長谷川伸は、その生い立ちからも環境からも、江戸から続くアウトローの世界をよく知っていた人でした。彼が知っている「やくざ」社会は、私たちがイメージするものとは違う、もっと「はぐれ者」を大きく包み込んでいた社会だったのです。それは、今ではあまり聞かれなくなってしまった、講談、浪曲、浄瑠璃などの語りの世界にしっかり受け継がれていました。しかし、その「語り」の世界は戦後、経済成長とともにだんだん衰退していきます。「義理人情」の世界は日本の昔の世界のものと遠ざけられてしまったのです。まさしく、私自身がそうでした。それが、職業人から離れて、自由な立場で物を考え出した時、ハタと気づいたのです。私たちに抜けているのはその世界だということ。

山折哲雄は、長谷川伸の作品の中に、日本人の奥深くに育てられてきた倫理観や道徳感情が脈々と息づいていることを指摘します。「義理人情」の世界は危ういし哀しい。それは神や仏を信ずるのではなく、人間を信ずることからくるもので、昔話の日本特有の「無」の世界に通ずるものです。この「無常」の世界は、日本社会の底辺に通奏低音として、今もしっかりと根付いていることを、この本は私に気づかせてくれました。これまで目を覆ってきた「義理人情」の世界を自分の世界としてみていくことを教えてくれたと思っています。（昔語りの会 山浦 敬子）



（昔語りの会 山浦 敬子）

葛飾区立中央図書館の「多読コーナー」が充実してきました！

中央図書館の「多読コーナー」の蔵書数が凄いいことになっています。2年前、英語多読講座が始まった頃と比べると、数も種類も圧倒的に増加し、幅広いジャンルの本から選ぶことが可能になりました。下の写真は、左が2年前、右が今年度の多読コーナーの様子です。大人気の「Oxford Reading Tree」というシリーズが書棚の左上から始まり、「館内専用」として、いつでも図書館で読むことの出来る本も追加されています。その他にも、大人が楽しめるノンフィクションや伝記、物語のシリーズが増え、中でもお薦めしたいのは、「Foundations Reading Library」というシリーズです。このシリーズは、複数の若者が主人公で、学校生活、恋愛、冒険など、やさしい英語で書かれているのでストーリーが分かりやすくなっています。最初のページに単語をイラストで説明しているページがあるなど、丁寧な構成で中高生にもお薦めできるシリーズだと思います。緊急事態宣言などで大変な中、自宅で過ごす時間が増えた分、図書館の有り難さを感じる事が多くなりました。



2年前



現在

このように新しいシリーズを手にとって読むことができるのは、図書館の司書の方々のお陰です。5年後、10年後、更に蔵書が増え、英語の本を楽しむ人が増えることを祈っています。この機会に皆さんも、葛飾区の「財産」とも言うべき多読コーナーを是非ご活用いただければ幸いです。（多読クラブ カ石 歩）

「代官山T-S I T E (代官山 蔦屋書店)」見学会 (2020年10月18日)

本と文化の都市空間を満喫!

前年度の東洋文庫ミュージアムの見学会が、寒い12月の土曜日の開催となってしまった反省を踏まえ、快適な季節に友の会のイベントや打ち合わせと重ならない日程で実施しました。コロナ禍のためか少人数の参加となったのは残念でしたが、しかし高密度の充実した時間を過ごすことができました。

2011年12月にオープンしたこの施設は、「代官山 蔦屋書店」を中核として、いくつもの小さな専門店が緑豊かな遊歩道で結ばれた、本好きの大人のアミューズメントパークでもあり、憩いの場である魅力的な場所です。

代官山駅前から下町葛飾とはやや趣の異なるハイセンスな街並みを眺めながら歩くこと約5分、突如現れたオアシスのごとく煌めく「代官山T-S I T E」に到着しました。代官山には、建築家 槇文彦氏の手による「ヒルサイドテラス」が形作ってきた都市文化が根付いていますが、違和感なく溶け込んでいるのが印象的でした。まず入り口で記念写真を撮った我々は、3つのフロアで構成されている蔦屋書店を順に見て回ることになりました。しかし、最初にありとあらゆるジャンルの雑誌が揃っているマガジンストリートに入った途端テンションが上がってしまい、早くもそれぞれ黙々と本を眺めることに没頭。広い店内で迷子にならないよう気を付けながら、少しずつ書棚を移動していきました。

「人文・文学」「アート」「建築」「クルマ」「料理」など様々なジャンルの本が多数並んでいるにもかかわらず、書棚と書棚に囲まれた隠れ家のような空間を取り入れることで、本を身近に感じさせ、自分のための場所だと思わせる蔦屋書店ならではのフロアづくりは見どころの一つです。「旅行」コーナーでは実際の旅の手配のカウンターが設置され、「映画」コーナーにはDVDも豊富に揃い、「音楽」コーナーにはCDはもちろんヘッドホンなどのオーディオ機器も販売されており、本から刺激を受けた興味をさらに深められるよう商品の配置に戦略が練られているのにも興味をそそられました。

帰り道は、参加者同士で音楽や映画の話に花が咲き、本が持つ可能性の大きさに気づけた楽しいひとときでした。

(イベントクラブ 園田 久美子)



☆☆☆☆☆☆ 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか! ☆☆☆☆☆☆

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか? 友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員 1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を右記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、2021年度年会費とご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では203円、ATMからでは152円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

お問い合わせ先: 中央図書館友の会担当者(濱中さん、吉村さん、川井さん、盛さん) Tel 03-3607-9201

色えんぴつ

新型コロナウイルス流行でますます顕著になったように感じる「こと」。それは今を生きぬく人間にとってネットが利用できるかどうかだ。特にワクチン接種の予約のニュースを見ると明らかだ。「デジタル格差」という言葉、PCやスマホなどの機器を使えるかどうかで大きな差がつく▼当方も最近やっと、最小限度のスマホのツール使用が出来るようになった。それでももともと利用できる機能があるように、宝の持腐れ?に近い状態だ。一時期、図書館の書架への入場が制限され、PCかスマホで予約した本の貸出しのみ可能な時期があった。題名や著者などで図書館のHPで検索し予約すれば、読みたい本などは今まで通り借りられる▼しかし、その方法が取れない人、書棚に並んだ本を手に取り、背表紙のタイトルや装丁などで選んできた人たちは資料を借りる手段がない▼既に小学校ではプログラミングの授業が開始されているという。1人1台のタブレットによるリモート授業が導入されつつあるらしい。勿論会議も…。デジタル機器が使えないと世の中に置いていかれるわけだ。以前から経済的な格差は問題にされてきたが、ここに至って更に情報利用手段の有無によって教育や医療などあらゆる場面にその「差」が生じている▼額に汗水たらしての世に生きてきた者にとつて、今までの苦勞は何だったのか? 手ぬぐいで拭きな!で終わりか? なんととも口惜しさが残る…。(中里広報委員)